

## 画像によるブナシメジの品種分け

寺澤 泰（長野電波技術研究所） 松山 正彦（名古屋女子大学）  
森尾 吉成（三重大学） 堀部 和雄（三重大学）

### 1. はじめに

茸栽培が始まって以来、より良い栽培品種を求めて品種改良が続いている。近年、大量生産が可能となったものは、えのき、まいたけ、ひらたけ、ホンシメジなどの名で呼ばれ、市場に並んでいる。そして品種が多くなるにつれて、品種分けの不明確さや誤認から、様々な問題が起こるようになってきた。ここでは具体例としてブナシメジの例を挙げる。学名ブナシメジ (*Hypsizigus marmoreus*) は、市場においてホンシメジ (*Lyophyllum shimeji*) として長い間、販売されてきた。この原因としては、以前、酒造メーカーがブナシメジをホンシメジとして特許を取得したために起きたものであるが、最近になり消費者の忠告や要望により、学名のブナシメジと呼ぶことが一般的になってきた。本来はブナシメジとホンシメジはまったく異なる種類で、量産を目的としたホンシメジの人工栽培は実現していない。また、ブナシメジの中にもたくさんの品種が存在し、現在数十種類と言われ、突然変異、交配種などで増える可能性も当然ある。種苗法に基づく届け出だけでも数種類に及んでいて、これらのブナシメジは形状、成長パターン、味の違いがあり消費者の立場からも同じ名前で販売される事には抵抗がある。このような状況下での品種分けをする必要がでてきた。

### 2. 試験方法

品種の違う2種類のブナシメジを同時に同じ環境で栽培し、栽培パターン、形状別に写真にとり、比較した。大きさ、方向、並べ替え等を後日修整する為にデジタル画像処理を用いた。

資料にはブナシメジの3号菌としなの2002菌の2種類を用いた。

### 3. 結果

栽培パターンの違いは同品種であっても数日間の差があり、栽培パターンによる品種分けの確認は、難しく膨大で写真数約100枚の為省略する。(パネル展には一部展示する。) また、形状は傘の裏側、軸の断面に違いがあり、図1-1、図1-2、図2-1、図2-2に示す。傘の色の違いに付いては同じ蛍光灯でも場所により色の変化があり、品種の違いかどうか判断できないが傘の模様の違いが有り、図1-3、図2-3に示す。

### 4. 考察

形状、色などが類似した、きのこであっても、味・食感に違いがあったりする。きのこに限らず品種改良はさらに進んでいくものと思われ、消費者が望む条件は形状だけでなく味や安全性などであり、現品に表示される内容をさらに検討し、消費者が商品について素早く判断できる情報を提供する必要があると考える。

図1. 宝3号



図2. 信濃2002

